

目指す生徒像 『○思いやりのある生徒 ○心身を鍛える生徒 ○自主的に学ぶ生徒』

### □家庭の絆!その1

家族の絆に関するエッセイです。ある小学校の児童が書いた作品で、2つとも『ひいおばあちゃん』に関するものです。是非ご家族でお読みください。

『何回も』

小学4年生の作品

ひいおばあちゃんのたん生日に、にがお絵と手紙をあげました。

「ありがとう、上手だねえ。何年生になったんだい。」と、うれしそうに言われて、

「4年生だよ。」

と答えたら、またすぐ後に「ありがとう、上手だねえ。何年生になったんだい。」

と聞かれました。

ひいおばあちゃんは認知症という忘れてしまう病気で、施設にいます。何回も同じことを聞くので、最初は、ひいおばあちゃんがこわれてしまったと思いました。

でも、やさしい笑顔は変わっていないし、いつも私に「かわいいね、大きくなったね。」と言ってくれます。

6回目の「ありがとう、上手だねえ・・・。」に返事をした後、ひいおばあちゃんは、

「ああ、うれしいね。」と言いました。すぐに忘れてしまうけれど、何回でも新しい気持ちで話を聞いてくれます。

私は今日、ひいおばあちゃんに6回喜んでもらいました。私も6回うれしくなりました。

だから私は、また、何回もひいおばあちゃんを喜ばせに行こうと思います。



### □家庭の絆!その2

『ひいおばあちゃん』

小学5年生の作品

ぼくの家には、九十九歳のひいおばあちゃんがいます。そのお世話を、おばあちゃんがしています。

あまり歯がないひいおばあちゃんのために、毎日おかゆを作り、おかずは小さくきざみ、魚の骨も、のどに引っかかったら大変だからと取ってあげています。

時々ぼくも、食べ終わった食器を片付けてあげます。

そうすると、いつも「ありがとう。」と言ってくれます。

トイレも一人では行けないので、おばあちゃんが連れて行きます。

一日に何回も何回も行くので、毎回おばあちゃんはおこっています。

おこっている声を聞くのはとてもいやだけれど、それくらい大変なんだと思います。

ぼくが大きくなったら、おばあちゃんももっとおばあちゃんになります。その時はお母さんがおばあちゃんのお手伝いをするようになると思います。

そうしたらぼくは、お母さんのお手伝いをたくさんして、助けてあげようと思います。

